

名刹の威容を示す山門

所在地：西新井 1-15-1 総持寺



総持寺山門

そ じ さん もん

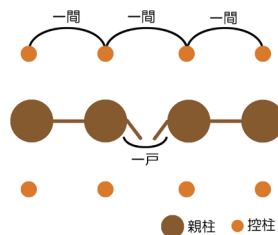
■ 総持寺 ー西新井の地名由来の名刹ー

総持寺(通称西新井大師)は真言宗豊山派の寺院で、区内屈指の名刹めいさつです。

創建は天長3年(826)といわれています。この頃、全国に悪疫が流行し、弘法大師こうぼうだいし空海が当所に立ち寄り、観音像と自身の像を彫り観音像を本尊とし自身の像を枯れ井戸に安置して祈禱したところ、井戸から清らかな水がわき、悪疫がおさまったといわれます。村人たちは空海に感謝してお堂を建て、空海の尊像と観音像をまつり、これが現在の総持寺となります。そして、井戸がお堂の西側にあったことから、西新井という地名が誕生したと伝わります。

■ 三間一戸の八脚門さんけんいつこ はっせやくもん

総持寺山門は、三間一戸の八脚門です。これは、一番端の柱と柱の間が三間(約5.5メートル)あり、戸が一つの門のことを言います。八脚門というのは、親柱以外の控柱が前に四本、後に四本、計八本ある門のことです。



■ 区内唯一の楼門ろうもん

山門は、二階建てとなっています。二階建ての門のことを楼門といい、格式の高い門です。上層の中央部には五智如来が安置されていた須弥壇しゅみだんがあります。

名刹である総持寺に相応しい威容であり、区内唯一の楼門であることなどから、足立区指定文化財となっています。

※平成30年に保存修理工事が完了し、山門の位置も元の場所から本堂側へおよそ6メートル移動しました。